

チャレンジ! 野菜作り ニンジンの トンネル栽培

園芸研究家 成松次郎

ニンジンには、花芽が伸びて栄養を取られる「とう立ち」を起こしやすい野菜です。そのため、春まき用にはとう立ちしにくい品種を選びましょう。

「向陽二号」(タキイ種苗)は、どんな土壌にも適応しやすく作りやすい品種です。

「畑の準備」

種まき2週間前に、1㎡当たり苦土石灰を100gまき、約30cmの深さまで耕します。1週間前に、完熟堆肥を2〜3kg、N:P:K比が各10%の化成肥料(固形30

図1 種まき

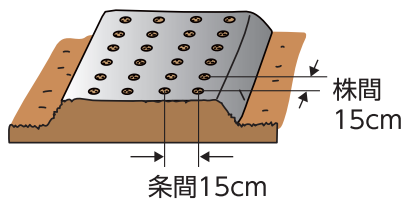


図2 トンネルの設置

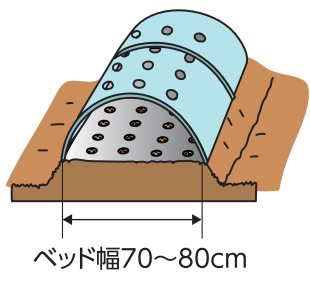


図3 間引き

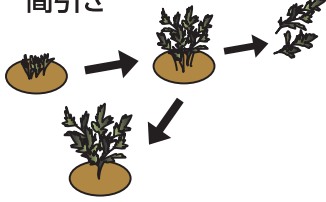


図4 土寄せ

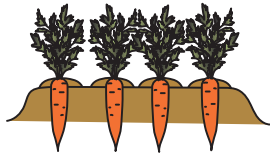


図5 収穫



号など)を100〜150g施し、土とよく混ぜておきます。

次に、幅70〜80cmのベッドを作り、マルチをかぶせて地温を上げます。ベッドの幅は使うマルチの幅に応じて調整してください。

また、条間・株間各15cmの穴開きマルチを使うと便利です。

「種まき」

ニンジンは10℃程度でも発芽するため、1〜2月から種まきができますが、発芽の適温は15〜25℃、生育適温は18〜21℃なので、家庭菜園では3月にまくのが安心です。条間・株間をそれぞれ15cm開け、1カ所に5〜6粒まきましょう。(図1)

「トンネルの設置」

温度維持のため、支柱と被覆資材を使い(図2)を参考にトンネルを作ります。被覆資材は穴開き農ポリを選ぶと換気作業を省力化

できますが、普通の農ポリを使う場合は、生育に従って裾を上げて換気します。

茎葉が茂り、窮屈になったら、トンネルを取り外しましょう。

「間引きと土寄せ」

本葉2〜3枚のころ、1カ所につき2〜3本を間引いて土寄せし、本場5〜6枚で一本立ちにして、もう一度土寄せします(図3)。

収穫期近くには、根の肩の部分に緑に色付くのを防ぐため、さらに土寄せしましょう(図4)。

「収穫」

根の太さが4〜5cmになった株から順次抜き取ります(図5)。太りすぎや、畑の乾燥・加湿は裂根の原因になるため、そうならないうちに収穫しましょう。

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

肥料・農薬のご紹介

粒状固形30号プラス

2,540円(税込)
(12月末現在・当用価格)

粒状固形30号プラスは、野菜や花卉、果樹などに幅広く使える肥料です。

「肥料の三要素」と呼ばれる窒素(N)、リン酸(P)、カリウム(K)が10%ずつ含まれるほか、植物などが微生物に分解された「天然腐植」が含まれます。

一般的な化成肥料は、肥料成分が一気に溶け出すため、即効性はあるものの一部は農作物に吸収されずに流れてしまいます。それに対して「天然腐植」入りの粒状固形30号プラスは、肥料成分がゆるやかに溶け出すため、作物への吸収効率が高く、環境にやさしい肥料です。

また、粒状なので施用が簡単で散布量の管理や保管にも便利です。ぜひ、畑などにお使いください。

※詳しくは、各営農センターまでお問い合わせください